

工芸

応募点数	47点	招待作品	21点
入賞点数	7点	展示点数	61点
入選点数	33点	移は移動展出品作品	

(総評) コロナ禍の中で行われる令和2年度の県展。出品点数はどうかと気になりながら松江に入りました。すると、本年度の工芸部門の一般応募作品は47点。そのうち入選作は33点、受賞作は7点。昨年的一般応募作品が53点でしたから、数的には若干の減となっています。しかし、受賞した作品のジャンルは、染織、陶芸、硝子、漆芸、人形、そして簪と、実に多様でした。とくに染織の受賞作は、控えめな表現ながら作家の内に秘められた意欲を感じさせるもので、大いに共感できる出来栄の作品であったと思います。さらには、一般入選作の中には、審査に当たった方々の中でも議論を呼んだ、流木などを活用した「ミクストメディア作品」とも呼べそうなオブジェ的な作品がありました。それは、「工芸とは、彫刻とは、デザインとは何か」という、ジャンルの再定義を誘発するような存在として、皆の前に鎮座しているように思われましたが、とにかく、強いメッセージ性と圧倒的なパワーを持つ作品として君臨し、最終的に工芸の展示会場に並ぶことになったのです。「ブレイク・スルー」とは常に、こういった破壊的とも言える出会いの中から生まれるのかもしれないと思いながら、あらためて工芸とは、或いは創作や表現活動とは奥深いものであるのだと実感したのでした。つまり、コロナ禍においても、いやむしろ、この状況において更に、作り手の表現は、社会に柔軟に対応しながら自己を深める方向に動いたり、或いは社会を鼓舞するような方向へ展開しようとするボルテージを上げている、このことを今回私は松江において、肌で感じたのです。

僭越ながら、平成29年度から4年間にわたり、鳥根県の工芸というものを、この県展を通じて見させていただきました。この4年間で振り返るなら、伝統を踏まえたこの地域の工芸力の懐の深さと、それに加えて、荒削りな部分は目立つものの、常に新しさを希求しようとする県民の皆さんの表現欲、「これが私の工芸だ」と主張せんとする「工芸愛」の強さに向き合った4年間であったということになるかと思います。工芸というものを見つめ、分類整理し、言語化・理論化することは意義のある、興味深い作業であると思いますが、やはり作り手の皆さんの創作衝動には敵わない、一個の作品が持つ力の前には謙虚にならざるを得ない、というのが実感です。今後の鳥根県の工芸の発展に、心より期待したいと思います。

(文責 三浦 努/鳥取県立博物館 美術振興課長)

知事賞 移

うんきんときだしまきえ だいぼち 雲錦研出蒔絵台鉢

うるし ぼら あき ゆき
漆 原 彬 之 (安来市)

研出蒔絵の技法で制作された力作である。本作の基調は、昨年度の銀賞受賞作とは異なり、器全体に施された朱漆によって形成されているが、その見込み部分に、黒漆による8枚の黒い葉が配されることで、力強く、そしてリズミカルに「自然」のイメー

ジが浮かび上がる。葉の先端部分に見られる「すぼまり」は、図式化された葉のイメージにユーモラスさをも与え、作品全体のデザインに対しても程よいアクセントとなっているようだ。一方、見込中央の円い窓の中では、さり気なく秋を感じさせる写実的な紅葉と、様式的な桜花の表現が散りばめられ、日本における自然表現の代表格二種がオーソドックスにあしらわれている。新鮮さを感じさせる8枚の黒い葉と、伝統的な季節感イメージとの融合が、本作にオリジナリティと魅力を与えている。

(文責 三浦 努／鳥取県立博物館 美術振興課長)

金 賞 ⑧

てんさんこうしよくし ふ おび じ おぼろ 天蚕交織紙布帯地「朧」 やま うち ゆ う (川本町)

一目見て、控えめだが実に魅力的、或いは可能性を感じさせる作品であると思った。石州の和紙で自ら紙縶を作って全体のベースとなる経糸と緯糸とし、そこに天蚕の絹糸を経と緯とところどころに織り込んでいったのだという。紙縶それ自体が持つ風合いが全体に行きわたる中に、ランダムに配された天蚕が無理なく溶け込み、「朧」という題名どおりの優しい味わいの帯地が成立している。派手さを排除した本作のありようからは、作家が何を目指しているかがよく伝わってくるように思う。今回初めての出品にもかかわらず金賞を受賞したということで、今後のさらなる展開が楽しみであり、また、紙という素材についても新たな可能性の提示が期待される場所である。

(文責 三浦 努／鳥取県立博物館 美術振興課長)

銀 賞 ⑨

おうゆうさんさいぼち 黄釉三彩鉢 お の とも ひこ 尾 野 友 彦 (松江市)

やや深みを付けた大鉢で、淡い釉薬が全体にかかる。飾り気をおさえた柔らかな印象の出来は使い手にとっても良いものである。器面には黄釉とされる釉が、白くむらむらとかかり、そこに布志名焼の伝統釉である鉄釉と緑釉が紋様のように心地良く配される。

作者は、袖師窯の陶技を受け継ぐ陶工で、確かな技による造形力には今後の活躍が期待される。

(文責 藤間 寛)

銀 賞 ⑩

がらす か き 硝子花器「MAYU」 かわ なべ まさ き 川 辺 雅 規 (出雲市)

小ぶりの作品であるが、近年めざましい活躍を見せるこの作家の代表作とも言えるような秀作が出てきたという印象である。去る第51回県展で銀賞を受賞した「MAYU」と同一シリーズかと思うが、今回は六層の被せ硝子の技法で、寒色系のイメージを湛える、静けさに満ちた作品が生まれている。端的に言って本作の魅力は、花器の口もとから広がる層表現の美しさ、それを作りだすカービングの造形性の美しさにあるように思う。とくに、口もとから向かって左側へと流れていく稜線の造形美には、筆舌に尽くしがたいものがある。(文責 三浦 努／鳥取県立博物館 美術振興課長)

銅賞 ④

まん だ ら もん そめつけ か き そら
曼茶羅紋染付花器「宙」 あら お 尾 久 美 (大田市)

地元の赤土に白化粧を施し、その上に計算され描かれた精密な図柄が美しい広口の花器である。花器の肩口に違和感なく描く技術は簡単に会得できるものではない。作者のこれまでの努力が見事に表れている作品である。呉須で描かれたラインの上の金のポイントも嫌味無く作品に品を与え、良いアクセントになっている。白化粧の上に図柄をほどよく描くことによって花器に温味を与え磁器の染付の器とは全く異なった空気感を出している。内側には、来待石を用いた柿釉が施されている。外側の白色と内側の柿色のコントラストも面白い。これだけの技術があるので、今後は様々な器に応用し、陶芸の可能性を広げていってほしい。

(文責 内田 和秀)

銅賞 ④

さい く かんざし し まい
つまみ細工簪「姉妹」 f23 まえ だ ぶ み よ
 前 田 二三代 (松江市)

昨年に続き出品された簪が、このたび銅賞受賞である。県展の工芸部門では珍しいジャンルであるが、その細やかな仕事が高く評価されたということであろう。本作では、三日月型と言おうか、曲線を生かしたフォルムを持つ小さなベース二つの上に、「姉妹」という言葉の通り、二種類の細工表現が展開されている。ベースに配された大小幾つかの花柄には、明るい色調のものと渋い色調のものとがあり、一方のベースは明るく、もう一方は渋めで統一されており、性格の異なる二人の人物のありようをあらわしているようでもある。小さな簪であるが、題名と相まって物語性をも感じさせるような秀作となっている。

(文責 三浦 努/鳥取県立博物館 美術振興課長)

銅賞 ④

さと はは
ふる里の母 お むら まち こ
 小 村 眞知子 (出雲市)

この作品を見ていると、心が和んできます。ふる里の母を思い出すのでは、ないでしょうか。くわを手にして母も、子供達に逢う日を楽しみにしているのではと、想像してしまいます。前姿からも、お年を重ねた感じが良く出ていますが、後姿も特徴をよくとらえていて雰囲気が良いです。今後の作品に期待しています。

(文責 吾郷江美子)

入 選

題 名	氏 名	備 考
飴釉窯変茶碗	郡 司 位 秀 (松江市)	
うず潮組皿	福 田 夏 希 (松江市)	
萬葉集 山上臣憶良思子等歌	高 橋 成 和 (松江市)	
葉もれび	長谷川 三 芳 (松江市)	新人賞
お外へ行きたい	大 草 章 代 (出雲市)	

題名	氏名	備考
筒描色替皿	板倉清之(出雲市)	
茶碗	江村進(松江市)	
水指	江村進(松江市)	
茶入	須藤文義(松江市)	
番内犬	願(コロナ退治)(出雲市)	
大海原と宝船と波	願(コロナ退治)(出雲市)	
弁財天1/8	中祖佐三郎(松江市)	
茶碗	森山晴夫(出雲市)	
茶碗	内部長隆(松江市)	
天使の階段	松本輪加子(松江市)	工芸連盟賞
菊花紋研出蒔絵盤	漆原彬之(安来市)	
般若呼	ルテニ・スマダカ・オノール・カス(松江市)	
桜の花につつまれて	上野幸美(出雲市)	
茜竹柄付花入	岡義雄(松江市)	
面取墨流水指	越野良一(松江市)	
把手ひねり花立	小原敬貴(松江市)	
種の戦い	鳥谷幸代(松江市)	
来待石粉 大皿	松下純子(出雲市)	
来待石粉 花器	松下純子(出雲市)	
石露ノ滴花器	福間達也(出雲市)	工芸連盟賞
彩陶壺	山田正彦(松江市)	工芸連盟賞
⑩ 月あかり	吉山郁代(隠岐の島町)	
⑩ かえるみみ付花器	江戸端実(大田市)	
釉掛流し壺	江戸端実(大田市)	
⑩ 辰砂花入	水上隆(大田市)	
⑩ 灰釉炭化花瓶	螺山勝實(浜田市)	
⑩ サザンクロス天の叢雲	昇柏(江津市)	
⑩ 螺鈿文箱	多田眞幸(益田市)	工芸連盟賞

招待

題名	氏名	備考
⑩ 出雲焼瓢水指	空郷(松江市)	
鉄釉湧水文花入	柳楽勝重(出雲市)	
広瀬緋着物「春の調」	永田佳子(安来市)	
沈泥彩陶筥	犬山卓也(出雲市)	
窯変スリップウェア皿	福間琇士(松江市)	
桑椽桐神代杉象嵌風炉先	正木潤(出雲市)	
⑩ 白磁鎚手皿	石飛勝久(雲南市)	
はばたく	かわなべかおり(出雲市)	
⑩ 型絵染釉地帯	黒川裕子(江津市)	
⑩ 輪花生	福郷徹(益田市)	

	題 名	氏 名	備 考
⑩	桑縁衝立	藤 原 正 (出雲市)	
	ほら紹織菱紹生絹着物「湖水を渡る」	松 浦 弘 美 (松江市)	
	布張月光塗小皿八態	石 村 稔 (松江市)	
⑩	縹縷幾何文花入	内 田 和 秀 (松江市)	
⑩	桑曲榊手付盆	渡 部 良 和 (雲南市)	
⑩	栗造拭漆盛器	濱 田 幸 介 (松江市)	
⑩	鉤窯壺	荒 尾 浩 之 (大田市)	
⑩	木綿手紡絵絣着物「恋待椿」	木 下 恵理香 (出雲市)	
	神代杉象嵌箱	深 田 学 (雲南市)	
	ことはじめ	吾 郷 江美子 (出雲市)	
⑩	省胎七宝bowl「KAKINE」	松 本 三千子 (松江市)	